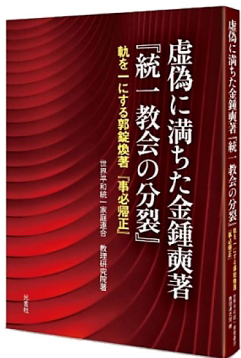


続・UCIを支持する人々の言説の誤り(17)

UCI(いわゆる「郭グループ」)およびFPA(家庭平和協会)を支持する櫻井正実氏は、二〇二一年六月三日、「第四アダムに対する理解」と題する動画を公開しました。彼はその動画で「二〇二一年は第四アダム時代の第一目です」と非原理的な、摂理観なるものを語り、動画の終わりのほうでは、「韓子(かんし)女史(にょし)がその真の母の位置を離れ、お父様が聖和された」今の状況であるとしたうえで、「今現在この地上で真の父母に立たれている方は、**顯進様と全淑様である**」と断言しています。文顯進様夫妻が「**今現在……真の父母に立たれている**」との主張は、真のお父様のみ言や「原理」に照らし合わせると、とんでもない非原理的主張にほかなりません。前回に引き続いて、櫻井正実氏の語る言説が、いかに非原理的であるのかを明らかにします。

教理研究院

注、真のお父様のみ言や「原理講論」の引用は「青い字」で、UCIおよびFPA側の主張は「茶色の字」で区別しています。



十七、真のお父様のみ言と異なる主張をする文顯進様は、第四アダムでも、真の父母でもない・その二  
(5) 顯進様は、メシヤではない  
櫻井正実氏は動画「**第四アダムに対する理解**」で、「**顯進様はメシヤである**」として次のよ

真の父母様宣布ウェブサイトはこちらから↓  
は、洗礼ヨハネに対し「**アダム型の人物**」とあるのを知らないようです。彼は平然と「原理講論」と異なる主張をします。これでは「原理」に対する基本的なことさえ分かっていないと言わざるをえません。



うに述べます。  
「**第四アダムという言葉で、アダムという言葉が使われていますね。第四アダムは、つまりアダム型人物であるということ**が分かります。私たちが原理で理解しているのは、**アダム型人物**というのは**メシヤを指す言葉であるということ**です」

そもそも、真のお父様が「**顯進が第四アダムである**」と語られたことはないわけですから、**顯進様を第四アダムと述べる**こと自体、誤った言説です。

まず問題を挙げると、櫻井正実氏が「**アダム型人物というのはメシヤを指す言葉**」と主張している点です。「原理講論」は「**洗礼ヨハネは、完成したアダムとして来られたイエスに対しては、復帰されたアダム型の人物であった**」(409ページ)と論じており、メシヤではない**洗礼ヨハネを「アダム型の人物」と説明**しています。櫻井正実氏

は、洗礼ヨハネに対し「**アダム型の人物**」とあるのを知らないようです。彼は平然と「原理講論」と異なる主張をします。これでは「原理」に対する基本的なことさえ分かっていないと言わざるをえません。  
ところで、真のお父様は、**顯進様に対してどのように**考えておられたのでしょうか。以下、二〇〇〇年四月三十日のみ言を取り上げます。  
「**今回、カーブ(CARP)活動を中心として顯進を立て、全世界のカーブ責任者たちは、……カーブを中心として若者たちや学生を完全に指導するのです。その準備をするのです。**」  
(「顯進様は第三メシヤです」。(笑われる) **第三メシヤですか？** あなたはメシヤが必要なのですか？ **第四アダム時代に入ってきたのに、メシヤが必要なのですか？** 分かりますか？ (「第三メシヤ」という言葉を使っています。)(笑われる) **メ**

シヤは必要ないというのです。  
(「これ以上のメシヤは必要ありません」)。そうです。**父母がメシヤです**」(「ファミリー」二〇〇〇年六月号27ページ)

真のお父様がみ言を語っておられるとき、誰かが「**顯進様は第三メシヤです**」と発言しました。つまり、最初に来られたイエス様が第一メシヤ、再臨主は第二メシヤですが、誰かが「**顯進様は第三メシヤ**」と発言したのです。お父様は「**第四次アダム時代に入ってきたのに、メシヤが必要なのですか？**」と即答され、「**メシヤは必要ない**というのです。(「これ以上のメシヤは必要ありません」)。そうです。**父母がメシヤです**」と語られ、「**顯進様は第三メシヤ**」と発言した人に対し、それを正されました。これは極めて重要です。  
真のお父様は、**顯進様がメシヤではない**ことを、すでに明確

にしておられました。お父様がこう語られてから二十一年が経過しましたが、櫻井正実氏はそのみ言に反し、いまだに「**顯進様がメシヤである**」と主張しようとしています。これは誤ったメシヤ観、非原理的主張です。「原理」を根本から否定する主張にほかなりません。

(6) 「**父子協助時代**」のみ言改ざんと悪用

——父子協助時代は、**真の母**が絶対に必要な時代である

教理研究院著『虚偽に満ちた金鐘甕著「統一教会の分裂」——軌を一にする郭錠煥著「事必帰正」で指摘したことですが、UCIを支持する金鐘甕氏は、み言を改ざんして書いた「統一教会の分裂」で、真のお父様が「**二〇〇〇年十一月には「母子協助時代が終わって父子協助時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ**」と語った」(70

ページ)などと、**虚偽**を述べています。櫻井正実氏も「**父子協助時代**」のみ言を悪用し、次のような主張をします。  
「**メシヤの使命を担っている第三アダムと第四アダム**(注、UCIは**顯進様**を第四アダムと強弁)が**一つになって、アダム家庭の失敗を完全に復帰する時代が「父子協助時代」でありました**」

櫻井正実氏はこう述べて、真のお父様と**顯進様**の二人によってアダム家庭の失敗を完全に復帰できると語ります。  
しかし、『原理講論』に「**メシヤを中心として、復帰摂理は完成されることになっていった**」(282ページ)とあり、かつ「**メシヤは人類の真の父母**として来られなければならない。彼が人類の真の父母として来られなければならない理由は、**墮落した父母から生まれた人類を生させ、その原罪を贖ってくだ**

さらなければならぬからである」(277ページ)とあるように、どこまでもメシヤである人類の「**真の父母**」によって「**復帰摂理は完成される**」というのが正しい原理観です。  
ところが、櫻井正実氏の非原理的な言説では、**第四アダムの顯進様**によって**摂理は完成する**、とでも言わんばかりの主張になっていきます。これは、**金鐘甕氏が述べる「母子協助時代が終わって父子協助時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ**」という、**虚偽の言説**と軌を一にするものです。  
「**父子協助時代**」のみ言を正しく理解しなければなりません。教理研究院は、UCI側の「**虚偽の言説**」に対し『虚偽に満ちた金鐘甕著「統一教会の分裂」』で、次のようにその誤りを指摘しています。以下、書籍から抜粋します。

「悪意のある、み言削除」および、み言改竄」

金鍾奭氏が引用したみ言の削除と、み言改竄に関する問題について確認していきます。……『主要儀式と宣布式Ⅳ』599ページには、「そこには母親は必要ありません」と書かれています。……このみ言を正確に知るには、その前後を理解しなければなりません。『統一教会の分裂』が省略、隠蔽した少し前の部分に、重要なみ言が隠されています。……

「母子摂理時代ではなく父子摂理時代なのです。真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました。……」

「51ページ」と語られ、子女たちが母親の名のもとに絶対服従してこそ、父と連結すると指導しておられます。私たちは、UCI側の「み言改ざん」に基づく「母子協理時代が終わって父子協理時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」という、虚偽の言説に惑わされてはなりません。

(7) お父様の聖和後は、真のお母様が責任を持つ

前項で述べたように、UCI側は「父子協理時代」のみ言を改ざんし、「父子協理時代が到来したので、母は必要なく、父と息子が一つにならなければならぬ」との非原理的な主張をします。櫻井正実氏も動画で「父と息子が一つにならなければならぬ」と時が来ているとし、真のお父様の聖和後、顕進様に使命があるかのように述べます。「お父様から祝福を受けた祝

の父を中心として真の母が現れ、そこから生まれた息子と娘たちには、サタンは手をつけられないのです」(注、これは『統一教会の分裂』が省略したみ言の部分)

真のお父様は、ここで「母親」という言葉と「真の母」という言葉とを、明確に使い分けておられます。お父様は、「真の父母が出てくる前までは、母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきました」と複数形で語っておられ、ここで言う「母親がいなくてもかまいません」とは「真の母」を指して語っておられる言葉ではありません。事実、「母の時代は過ぎ去り、父子摂理時代へと越えていくのです」と語られた直後、「それゆえ、神様を中心として真の父が現れ、真の父を中心として真の母が現れ……」と語っておられ、母親の代わりに、真の母が現れたことを明確に述べておられます。したがって、「母

福家庭も、再び顕進様、全淑様ご夫妻を通して、このご家庭(注、顕進様家庭)に接ぎ木される必要があるのです。祝福家庭が摂理的責任分担を果たすことができずに失敗した。……失敗した立場に立ってしまったので、それを本当に悔い改めて……再び神様の摂理的人物としての立場に立つてみ旨に貢献できる道が開かれている」

櫻井正実氏のこの主張は、虚偽の言説です。真のお父様が、ご自身の聖和後に顕進様が次の摂理を担っていくと語られたことは、一切ありません。むしろ、いわゆる「ポート会議」で、「顕進は)もう、ずっと前に離れたんだよ、十年前に」「顕進は先生と同じ方向に向いていない」と、顕進様に対し厳しいみ言を語っておられます。また、真のお父様は、ご自身が「第一教主」、真のお母様は「第二教主」であり、ご自身の

親がいなくてもかまいません」とは、真の母を指して語られた言葉ではありません。……

……以上の内容を整理すると、母子協理時代とは「真の父母が出てくる前まで」のことを言うのであり、その時代までは「母親たちは息子たちを育てながら迫害を受けてきた」というのです。しかし、父子協理時代は「真の父母を中心として、息子と娘が生まれた」ことで始まり、それゆえ真の父母が現れるまでの迫害を受けてきた「母親がいなくても」よく、「母の時代」は過ぎ去って「母親たちが迫害を受けた」母子協理時代が完全になくなつ(た)時代なのです。……

したがって、父子協理時代とは……「真の母は必要ない時代」なのではなく、母子協理時代のような「母親は必要ない」時代になるということです。すなわち、「息子たちを育てながら迫害」を受けてきたような、その

聖和後は、お母様が責任を持つと明確にしておられます。「先生が霊界に行くようになればお母様が責任を持つのです。その次には息子・娘です。息子がしなければなりません。息子がいなければ、娘がしなければなりません。後継する者が誰だということ、すでに伝統的に全て(準備が)なされています」(マルスム選集318-260)

「お母様を中心として皆さんが一体になっていかなければならない時が来ました。もう先生がいなくても、お母様が代わりにできる特権を許諾したということです。お父様がいないときは、お母様のことを思わなければなりません。そのように理解して、先生の代わりにお母様に侍る心をもち、祈祷もそのようにするのです。今までは先生を愛してきましたが、これからはお母様を愛さなければなりません。これからはお母様の時代に入っていくことを理解して、特に女性

ような「母親は必要ない」時代になったという意味なのです。父子協理時代によって、「真の父母を中心として、息子と娘

真の父が現れ、真の父を中心として真の母が現れ」るのであって、それゆえに、真の母は絶対に必要な時代となったのです」(361-366ページ。引用終わり)

以上のように、父子協理時代は「真の父母を中心として、息子と娘が生まれた」ことで始まったのであり、ゆえに父子協理時代だからこそ、真の母は絶対に必要だということです。

真のお父様は「世界平和統一家庭連合時代」の子女の信仰について「長子と次子(子女たち)は母親の名のもとに絶対服従しなければならぬのです。服従するようになれば父と連結します」(『主要儀式と宣布式Ⅲ』1

私たちはするようにしなければなりません」(『真の父母の絶対価値と民族的メシヤの道』116-117ページ) また、真のお母様が「第二教主」であるとして、次のように繰り返して語っておられます。「統一教会に文総裁がいなくても、韓総裁が教主になれるのです」(マルスム選集401-158、二〇〇三年一月六日)

「さあ……真のお母様、第二教主世界的宣布、一九九四年十一月二十七日、ベルベディア修練所」。お母様に拍手を一度送りましょう。(拍手)お母様はそれを忘れないように」(同404-101、二〇〇三年一月三十日) 「先生が霊界に行けば、お母様が統一教会の教主にならなければならぬのはありませんか」(同499-184、二〇〇五年七月二日) 「(先生が)急に霊界に行っても、……お母様が統一教会の教

主になったからといって軽んじる者はいないのです」(同523―246、二〇〇六年四月五日)

「統一教会の教主となった文総裁が死んでも、お母様を教主として立てるからといって、統一教会を韓国が反対できる歳月は全て過ぎ去ったのです」(同524―213、二〇〇六年四月十三日)

「文総裁は衰えるようになりましたが、……第二教主には、お母様が堂々としているでしょう。分かりますか。夫が成せなかったことを成し遂げなければなりません」(同540―73、二〇〇六年九月二十三日)

「お母様は、お父様よりももっとたくさん行います。年齢が若いので、私が死んでも教主は問題ありません。もはや、教主は二人が一つになっているということです」(同541―146、二〇〇六年九月二十八日)

言が語られ、宣布しているため「実体」と「み言」が一致する、すなわち「内外が一致し得る」と語っておられます。そして「天地人真の父母が定着しました」と語っておられます。それは実体が定着するということであり、真のお父様の勝利とともに、真のお母様の勝利なくして「定着」することは絶対にありえません。

このように「最終一体」というのは言葉だけの宣布ではなく、「最終一体」となった実体が先にあって宣布しておられるのです。このように真のお父様が語っておられる事実は極めて重要です。私たちは、真の父母様の「最終一体」が実体をもつて成され、宣布されている事実を知らなければなりません。

このみ言からも、櫻井正実氏が述べる「**父母の世代において、第三アダムと完全に一体化しなければならぬ、そのような韓女史が一つとなる**」ことができない

真のお父様は、「**教主は二人が一つになっている**」とおふたりの一体化を明確に語っておられ、真のお母様が「**第二教主**」であり、ご自身の聖和後、お母様が責任を持ち、お母様を中心にして一つなるべきことを指導しておられます。

櫻井正実氏は、真のお父様の聖和後、顯進様がその使命を引き継ぐかのように「虚偽」を語りますが、その主張はお父様のみに一切根拠がありません。私たちは、櫻井正実氏が述べる非原理的な言説に惑わされてはなりません。

(8) 実体をもつて「最終一体」となられた真の父母様

櫻井正実氏は、動画の中で「**父母の世代において、第三アダムと完全に一体化しなければならぬ、そのような韓女史が一つとなる**」ことができなかったとき、その責任は誰が取つていかなければならないでしょう

「**神様とアダムとエバは、家庭王即位式**」をすることができませんでした。……その「**家庭王即位式**」をしたので、**神様が、本来の真の父母を中心として、婚姻申告をすることができるときを迎えた**ということですよ。……文総裁を中心として、(神様は)婚姻申告をしました。今、**霊界に行けば……今まで霊界では、神様が見えませんでした。今、行ってみれば、霊界の父母の立場で、文総裁夫婦の顔が現れて、さらびやかな光で見えるので、顔を見詰めることができないほど、まぶしくなるといふのです**」(「ファミリー」二〇〇三年五月号27ページ)

「**神様とアダムとエバは、家庭王即位式**」をすることができませんでした。……その「**家庭王即位式**」をしたので、**神様が、本来の真の父母を中心として、婚姻申告をすることができるときを迎えた**ということですよ。……文総裁を中心として、(神様は)婚姻申告をしました。今、**霊界に行けば……今まで霊界では、神様が見えませんでした。今、行ってみれば、霊界の父母の立場で、文総裁夫婦の顔が現れて、さらびやかな光で見えるので、顔を見詰めることができないほど、まぶしくなるといふのです**」(「ファミリー」二〇〇三年五月号27ページ)

か。**第三アダムが責任を取つていかなければならぬ**になります。……**お父様が基元節を迎えることができずに霊界に逝かれるようになったこと……父母の世代……の責任が果たされてい**な

……**の責任が果たされてい**ななどと述べ、「**最終一体**」となられた真の父母に対し、それを否定する非原理的主張をします。真のお父様は二〇一〇年七月八日、天正宮博物館前の広場で「**実体み言宣布大会**」を挙行され次のように語られました。

「**み言が先でしょうか、実体が先でしょうか。今日の宗教では、実体に関するものは確信をもつことができません、律法を重視するので、実体と律法が一体になるという**」ことは、本当に難しいのです。統一教会では、**み言が先ではありません。実体があつて、その実体が行った事実をみ言で証しするので、内外が一致し得る内容を知ることができるといふのです**」(「真の父母

二度目の聖婚式以降、真のお父様は、神様に対し「**文総裁夫婦の顔が現れて、さらびやかな光で見える**」と語っておられます。すなわち神様は、お父様のお姿を通してだけでなく、今や真のお母様のお姿をもっても現れると語っておられます。これが二度目の聖婚式以降、お父様が語っておられる、お母様の立場です。

このみ言で分かるように、真のお父様と真のお母様は、神様と完全一体となっておられる、正に完成したアダム、完成したエバであるということです。「**原理講論**」に「**愛の力は原理の力よりも強いので、アダムとエバが完成し、神を中心として夫婦となることにより、その絶対的な愛の力によって、神の直接的な主管を受けるようになる**」も、またいかなる力もこの絶対的な夫婦の愛を断ち切ることはできないから、**彼らは決して墮落するは**

このみ言で分かるように、真のお父様と真のお母様は、神様と完全一体となっておられる、正に完成したアダム、完成したエバであるということです。「**原理講論**」に「**愛の力は原理の力よりも強いので、アダムとエバが完成し、神を中心として夫婦となることにより、その絶対的な愛の力によって、神の直接的な主管を受けるようになる**」も、またいかなる力もこの絶対的な夫婦の愛を断ち切ることはできないから、**彼らは決して墮落するは**

の絶対価値と民族的メシヤの道」(33ページ)

また、次のようにも語っておられます。

「**天地人真の父母が定着しました。その次には、実体み言宣布です。真理の実体、定着した、実体が語るその言葉が、宇宙を解放させることのできる言葉です。それが実体み言宣布です。男性なら男性、女性なら女性が、自分の利益を得ようと企てる、そのような思想ではありません。ですから、天地人真の父母が定着したとはどういうことかという点と、実体が定着するということとです。それで実体み言宣布なのです**」(同32ページ)

真のお父様は「**み言が先ではありません。実体があつて、その実体が行った事実をみ言で証しする**」と語っておられます。それは「**真理の実体**」である真の父母がまずおられ、その真の父母が勝利した事実をもってみ

完成したアダムと完成したエバは、**決して墮落するはずはない**」と「**原理講論**」で論じられた「**原理**」に照らし合わせると、真のお父様と真のお母様のおふたりは、神の直接主管圏にあり、もはや墮落などはありません。櫻井正実氏は動画で「**韓鶴子女史がその真の母の位置を離れていない状況**」「**天宙史的葛藤の中で韓女史が真の母の位置を離れてしまっている立場**」などと述べますが、これらの主張は、真のお父様が語られたみ言とことごとく食い違い、「**原理**」の教えにも反する、非原理的な言説」です。

私たちは、櫻井正実氏が動画「**第四アダムに対する理解**」で語る「**虚偽の言説**」に惑わされてはなりません。顯進様は第四アダムでもメシヤでもないのです。